

わが家でできる風水害対策

風水害による被害を最小限に食い止めるには、事前の備えが大切です。ここでは、日頃の備え、避難の際の心得など、わが家でできる対策についてまとめてみました。

「防災は 日々の備えの 積み重ね」
平成19年度防災標語 中学生の部 優秀作品

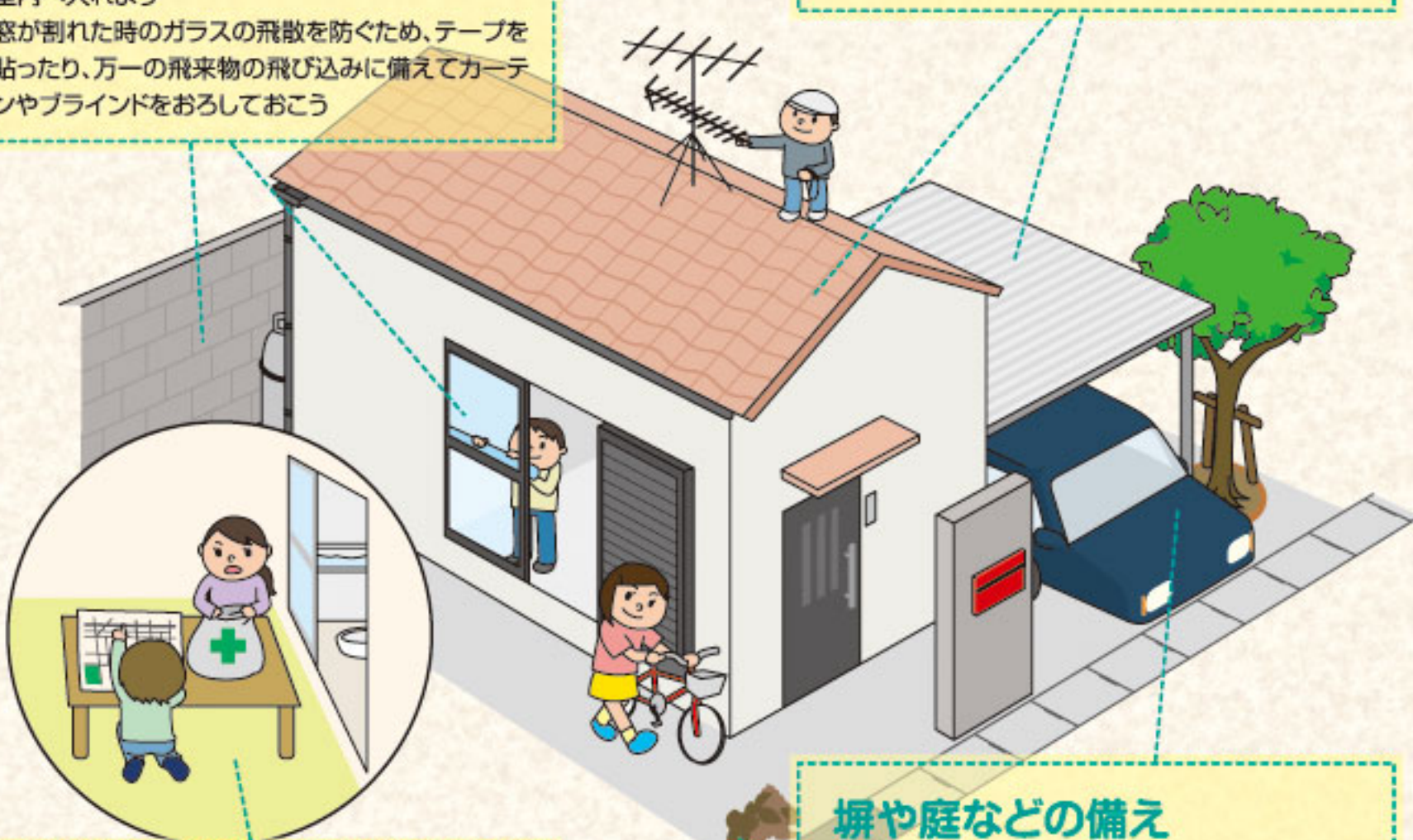
台風や集中豪雨がくる前に

外壁・ベランダ・窓などの備え

- ・壁に亀裂や腐りがないか点検しよう
- ・雨戸にがたつきはないか点検しよう
- ・プロパンガスのボンベはしっかり固定されているか点検しよう
- ・雨どいを掃除し、排水をスムーズにしておこう
- ・ベランダの植木鉢など、風で飛ばされそうなものを室内へ入れよう
- ・窓が割れた時のガラスの飛散を防ぐため、テープを貼ったり、万一の飛来物の飛び込み用にカーテンやブラインドをおろしておこう

屋根の備え

- ・瓦のひび・割れ・ずれ・はがれはないか点検しよう
- ・TVアンテナに緩みやぐらつきがないか点検しよう
- ・車庫や物置などのトタン板が風圧で吹き飛ばされないか点検しよう



屋内での備え

- ・非常持ち出し品の準備をしておこう
- ・停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオの準備をしておこう
- ・断水に備えて飲料水を確保しておこう
- ・浴槽に水を張るなどして、生活用水を確保しておこう
- ・浸水などのおそれのある場所では、食料品・衣類・寝具などを高い場所へ移動しておこう
- ・いざという時に避難する場所を確認しておこう

塀や庭などの備え

- ・ブロック塀にひび割れや破損がないか点検しよう
- ・側溝や排水溝のゴミや木の葉などを取り除き、水はけをよくしておこう
- ・庭木に支柱を立てたりして補強しておこう
- ・庭の物干し竿や自転車など、風で飛ばされそうなものを室内へ入れよう
- ・住んでいる土地の特徴を把握しておこう(くぼ地か、危険なけけはないかなど)
- ・崩れそうながけがあれば、ビニールシートなどで覆い、雨の浸透を防止しておこう

台風などが近づいた時の心得

- ・テレビやラジオなどから最新の情報を入手し、台風情報を注意深く聞こう
- ・雨で増水した川やがけの下など、危険な箇所へ近づかないようにしましょう
- ・病人、乳幼児、高齢者、障害者などの人々を早めに安全な場所へ移動させよう
- ・造成地、扇状地、急傾斜地、海岸地帯、河川敷などの危険な土地では早めの避難を心がけよう



避難勧告と避難指示

災害時には市区町村長が「避難勧告」「避難指示」を発令する場合があります。また市町村によっては、「避難準備情報」を発令するところもあります。

避難準備情報

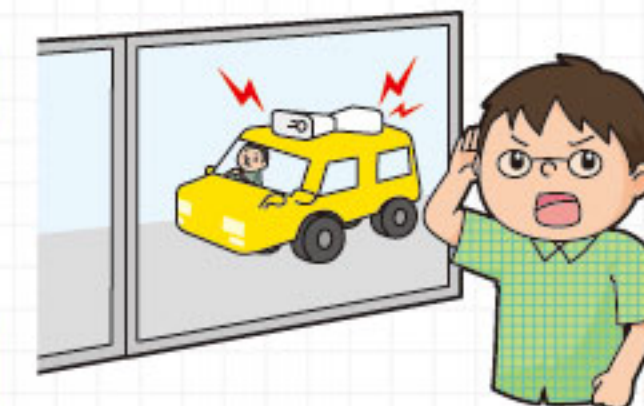
- ・要援護者等、特に避難行動に時間を要する人は、計画された避難場所への避難行動を開始(避難支援者は支援行動を開始)
- ・上記以外の人は、家族等との連絡、非常時持出品の用意等、避難準備を開始

避難勧告

- ・通常の避難行動ができる人は、計画された避難場所等への避難行動を開始

避難指示

- ・避難勧告等の発令後で避難中の住民は、確実な避難行動を直ちに完了
- ・未だ避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移るとともに、そのいとまがない場合は生命を守る最低限の行動



(「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(集中豪雨時等における情報伝達及び高齢者等の避難支援に関する検討会、平成17年3月)」より)

避難の心得

- 避難する時はひもで締められる運動靴で。長靴は中に水が入り、かえって動きにくくなります。
- はぐれないよう、互いの身体をロープで結んで避難しましょう。子どもからは絶対に目を離さないように。
- 歩ける深さは、男性で70cm、女性で50cmが限界です。また流速がある場合、足のくるぶし以上の水量があると、流されるおそれがあり危険です。無理をせず、高所で救助を待ちましょう。
- 互いの手をつなぐのは、行動の自由を奪うことにもつながります。非常持ち出し品などはできるだけ背負うようにして、手を自由におきます。
- 水面下には、ふたの脱落したマンホール、側溝、段差など危険が多いので、長い棒を杖がわりにして、安全を確認しながら歩きます。
- 高齢者や身体の不自由な人は背負います。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスなどを利用して、安全を確認します。